

町なみ再生協議会 設立総会・第5回歴史的なまちなみ勉強会  
 於 堺市立町家歴史館 山口家住宅

## 江戸時代の堺再発見 ～都市の魅力を考える～

2014(平成26)年5月11日

堺市博物館 学芸員

矢内一磨(ヤノウマ)

はじめに

歴史都市・堺

古代のロマン 「大王墓」・行基さん

中世の自治と自由 「世界に雄飛した貿易都市」「茶聖・千利休の故郷」

近代の進取の精神 「情熱の歌人と謝野晶子」・「仏典の探求・河口慧海」

「もののはじまりなんでも堺」

→戦災で焼けたとはいえ、ここまで、通史的に歴史遺産が揃っている市は、そうないのではないか。観光の時代→誰でも歴史資源の活用をしたくなる。

【気をつけること】これからの町の再生作業。歴史都市を整備する場合。

町の住民・歴史の町に住んでいるという自覚と誇り。

東京で。名古屋で。北京で。アムステルダムで。ニューヨークで。

播州龍野で生まれました。三木露風・赤とんぼ。

堺の出身です。堺で生まれ育ちました。仁徳陵古墳・南蛮貿易都市

### I 近世都市堺の魅力—具体例で学ぶ—

#### ①六間(ろっけん)筋と山之口(やまのくち)筋

六間筋→6間は道幅ではない。奥行き18メートルの町家が面した筋。

山之口筋→山口家住宅とは関係ない。宿院頓宮にあった山に由来する。堺のシンボリックな山住吉大社御旅所・宿院頓宮→夏越(なごし)の岡と称された二つの山がかつて境内にあった。

#### ②利休屋敷跡

近世都市堺の町衆が偉大な利休を偲んで、武野紹鷗・今井宗久らが住んでおり、利休も居たと比定される夏越の岡から300メートル西の名水井戸を利休ゆかりの場所として整備。

近世の堺の町衆が、郷土の茶の湯の大成者千利休を偲んで記念をした都市の輝かしい足跡で、利休が産湯をつかったという次元のものではない。

利休の偉業とともに、偉大な近世の堺の人々の精神を伝えることが大切。

### ③旧市内北部界限

元禄2年絵図・享保13年絵図に描かれた路地や町のかたちが、みごとに残っている。

綾之町・桜之町・北旅籠町のエリア

路地の向きや街区が、実によく残っているのが当該エリア。

路地や町の形をしっかりと把握したら、案内に最適である。

路上観察や地図を手にした街歩きが、中高年層に大変なブーム。

路上観察の達人タモリさんのプラタモリなど。新しい観光資源として開拓可能。

### ④寺町界限

門前町や寺内町ではない寺町。街路は江戸時代の形を残している。建物も部分的にはあるが、天災や戦災を免れている。

## II 中世界の栄光と近世界の没落？

江戸時代の堺

もっとも豊かな歴史都市で、魅力が溢れた時代。

海外の栄光→堅実な計画的な都市経済（井原西鶴）

豪商の栄華→茶の湯を生活や儀式に取り込んで始末（井原西鶴）

安定して豊かな成熟都市となる。ニューヨークとアントワープの例。（矢内）

近世のフィルターを通して、中世自由都市・利休をみている。

江戸時代についての理解に問題がないか。

前近代の封建制・身分社会、都市のブルジョワジーが農村地域を疲弊させた。

→江戸時代が劣った停滞時代という考えは、修正されている。

堺環濠都市北部地区における歴史的なまちなみの再生→江戸時代の堺の再生。

中世の自治と自由

江戸時代の成熟安定都市

近代工業都市

いずれも、都市の歴史に鑑みて優劣をつける必要がないと考える。

歴史事象は、そのまま。

（例外もある）災害対策史・医療衛生史などの分野。

## III 堺奉行資料を活用するー総点数942点の資料からー

『忠臣蔵と旗本浅野家』（2009年、たつの市立龍野歴史文化資料館）

市村高規「堺奉行所資料の発見」（『ヒストリア』2010年6月）

→相生市内の民家からの発見とたつの市立龍野歴史文化資料館への収蔵の経緯が記される。

たつの市の資料館が、相生市内の民家へひな人形寄贈 引き取り。

そのついでに江戸時代の古文書がいっぱい入った箱を引き取る。

そのなかに入ってたものこそが、若狭野浅野家文書(総点数942点)であった。

浅野長恒が勤めた第24代堺奉行に関する史料

→2013年10~12月に堺市へ280年ぶりに里帰りした。堺市博物館で公開。

①開口神社、菅原神社、妙國寺、宿院頓宮、南宗寺など著名な寺社の絵図が揃う。  
伽藍の配置が一目瞭然となった。しかもそれらの寺社の宮司さんや住職さんが、この図は初めて見たというものばかり。

②享保13年堺町絵図の発見

元禄の堺大絵図→第一等史料。

巨大すぎて扱いにくい。展示できない。

何のために作ったのかも、まだ完全にはわかっていない。

後世の付箋や書き込みが、拵げるたびにとれてしまう。

矢内も実物を拵げたところは、一回しかみたことがない。

享保13年絵図

小さい図面(奉行が恒に手元に備えていた手鑑の付図)

元禄の大絵図から39年後の堺の様子が実によくわかる。

元禄図と比較ができる。塩穴池の埋没

享保13年図に後年の加筆がされていない。

絵図作成の目的が、はっきりとわかる。今現在ある町の数を把握するために奉行所が作成をした図面であると記録されている。

現在の町の街区との比較

寺町、北旅籠町・桜之町などの戦災を免れたエリアの路地がわかる。

これからの堺都市図のスタンダードになる貴重な絵図。

## おわりにー再び地域の魅力とはー

都市堺の中世の光と近世の影？

中世 海外に雄飛した堺豪商の栄光

自由と自治を謳歌した堺の会合衆

近世 停滞、模索、天領での上からの支配

本当にそうか。

→この史料の発見で、近世都市堺の歴史を書き換えることが可能になった。

近世都市堺の魅力を基礎におくことで、堺の町並み再生は歴史的に整理がつく。

与謝野晶子『私の生い立ち』江戸時代の情緒を残した堺の町での少女時代を懐かしむ。着物についての説明が大変しっかりしている。

食満南北の記述

これらをしっかりと読み込んで町の息遣いや、人々の登音が聞こえるような歴史を。

海の向こうからお宝をたくさん取ってきた豪商の手柄話ばかりが、堺の歴史ではない。

堺の場合 20世紀の戦災と戦後の開発が再生の障壁になっている。

中山道宿場町 馬籠・妻籠の事例

成功事例を見に行っても勉強にならない。

→失敗事例や苦労しながら途上にある事例→学ぶことが多い。